

令和年度 第2回 幸田町総合戦略推進委員会 議事録

○日 時：令和2年2月17日（月）午後2時～3時45分

○場 所：幸田町役場4階 第3第4委員会室

○出席者：委員及びオブザーバーの計16人、町事務局等7人

○協議内容と主な意見等

「幸田町まち・ひと・しごと創生総合戦略」における数値目標及び交付金事業に対する評価などについて、委員から以下のようなご意見をいただきました。

●次期総合戦略について

- ・総合戦略は今年度が5年目の最終となるが、1年延伸し、今年度と来年度の2か年で十分に検討して計画を見直し、次期計画につなげる。

●数値目標（K P I：重要業績評価指標）に対する評価について

- ・幸田町の成長エンジンは税収で、製造品出荷額などのK P Iが税収とどの程度相関があるのか検討してほしい。
- ・K P Iはどのような因果関係で目標となっているのかを明確にすべきであり、必要ならば分科会で議論すべきである。
- ・待機児童対策は、建設プランに余裕を持たせて計画してほしい。

●交付金事業について

□低温プラズマ事業

- ・機械の市販化を目指しているが、農家の求める価格とはギャップがある。
- ・事業はデータを出して統計的な有効性を示す段階にある。
- ・見学会を開催するなど、現場を見て評価すべきである。

□多世代交流施設

- ・巡回労働相談がゼロ件だが、企業の協力体制にも課題があるのではないか。
- ・発明クラブのような事業をやるのもよい。
- ・当施設が目玉となり、シンボリックなものになればよい。

□第三子のいる世帯数（目標値）

- ・この目標値は、様々な施策が総合的にうまくいかないと達成できない。
- ・住宅地を補助し、三世帯で生活できるような土地を提供して家族を増やせば、第三子は増えると思う。
- ・第三子については、産むだけ産んで中途半端になってしまう環境だと困るので、出産後、就職して結婚するまでの議論ができる場があったほうがよい。

●その他

- ・外国人に日本語を教える「ポケットーク」という機械は、多文化共生に貢献するのではないか。
- ・今後、旧集落は人口が減り、空き地や空き家が発生してくるので、新旧住民が融合するような施策を打つべきである。

以上